

# 小学校理科 (主として「知識」に関する問題) (主として「活用」に関する問題)

平成27年度  
全国学力・学習状況調査

## 問題の趣旨

### 《主として「知識」に関する問題》

理科に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。器具の名称や扱い方、月の形や星座の動き、水蒸気の理解などが出題されています。

### 《主として「活用」に関する問題》

理科に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について実験や観察の方法を考える、結果を予想する、実際に出た結果を考察する問題が出題されています。

## 全体の正答率

\* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して  
0.4%上回っています

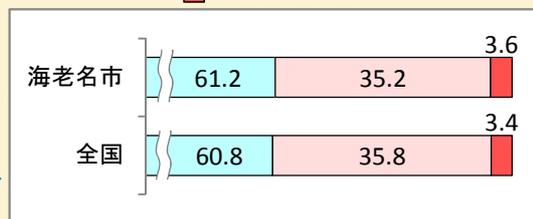
### 《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
理科	61.2	60.4	60.8	+0.4

誤答の様子は…

### 《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)  
■ 無解答(何も書かなかった)

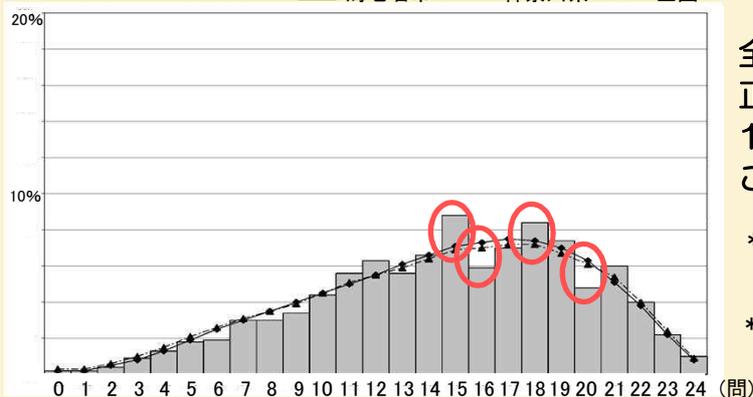


無解答率(何も書かなかった)は3.6%でした。

分布の様子は…

### 《正答数による分布》

■ 海老名市 ■ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると  
正答数が15問、18問の児童が多く  
16問、20問の児童が少ない  
ことがわかります

\* 正答率50%以下(0~12問)の児童の割合は32.5%でした。(全国は32.7%)

\* 正答率80%以上(20~24問)の児童の割合は17.9%でした。(全国は18.2%)

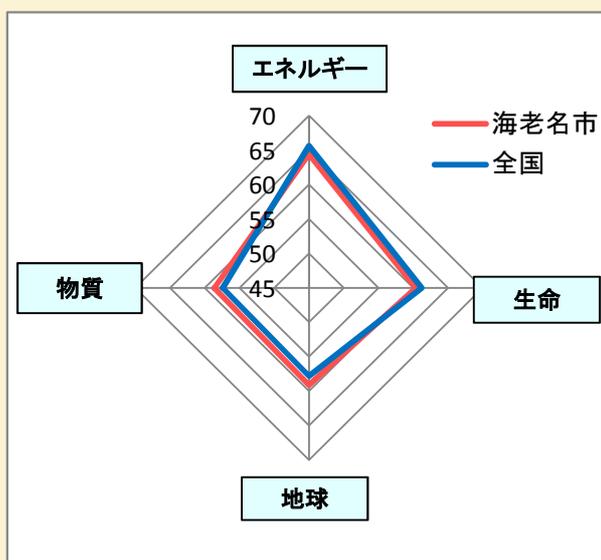
## 領域別の正答率

「物質」「地球」が全国をやや上回っています

		海老名市	全国	全国との比較
A区分	物質	58.6	57.4	+1.2
	エネルギー	64.4	65.6	-1.2
B区分	生命	60.4	61.2	-0.8
	地球	59.1	57.8	+1.3

\* 「物質」「地球」については、1.0%以上上回っていました。

\* 「エネルギー」「生命」については、約1.0%下回っていました。



## 内容について

\* ( )内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- 水が水蒸気になって空気中に出ていく現象の名称を書く。( +8.7)
- 顕微鏡で焦点を合わせる時に行う操作を選ぶ。( +4.7)
- 絵を見て器具の名称を書く。(メスシリンダー) ( +4.3)

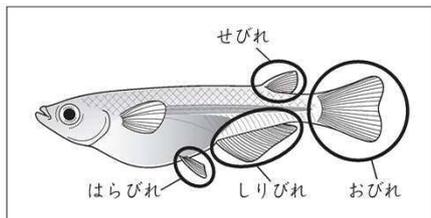
全国を下回った設問

- メダカの雄と雌を見分ける部分を選ぶ。( -13.0)
- 東を向いたときの90度右の方位を選ぶ。( -4.5)
- 振り子時計について、時計が遅れないためのおもりの位置の調整方法を選ぶ。( -4.2)

### 理科で平均正答率が全国を下回った設問の例

メダカの雄と雌を見分ける部分を選ぶ設問 (全国との比較-13.0%)

よし子さんは、水そうの中におすとめすのメダカがいるかどうかを調べることにしました。メダカのどの部分を見ると、おすとめすを見分けることができますか。下の 1 から 4 までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 せびれ
- 2 はらびれ
- 3 しりびれ
- 4 おびれ

正答 1、3

☆理科のすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

## 考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が15問、18問の児童が特に多く、16問、20問の児童が特に少ないことから、各領域の基礎的な力を確実に身につける必要がある。
- ◆ 「物質」「地球」の領域において平均正答率が全国を上回っており、水の温まり方や星座の動きに関しては授業での取組の成果が見られる。
- ◆ 実験結果をもとに考察して分析した内容を記述する能力に課題があり、指導の工夫が求められる。

## 指導の改善にむけて

- ◆ 「知識・理解を確実に身につける」ために
  - 実験・観察の時間を十分に取、学習内容の確実な定着を図る。
  - 実験・観察した事実と科学的用語を関連づけて指導する。
- ◆ 「活用する力を高める」ために
  - 実験・観察をもとに考察・分析し、自分の考えを記述できるように指導する。
  - 身につけた知識・技能を、自然現象や日常生活に当てはめて考えられるように指導する。